

なる者、アブ バクル (1/3) : 先 者

:

明:イスラ ムを受け入れ、 史に名を刻んだ敬虔な男。

目:[事 言者ムハンマド彼の教友たちの物](#)

より: ア イシャ ステイシ

日1 Feb 2013

集日 11 Feb 2013



「もし かを私に最も近い盟友とするなら、それはアブ バクルであろう。彼は私の兄弟であり、教友でもある。[1](#)

」これは 言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の言 で、アブ バクルは彼に最も近い友人でした。アブ バクルはアツ=スィッディ ク（ な人物）として知られていました。アラビア のスィッディ クは、その人物に嘘 りがないことを示すだけでなく、一 した 性を持つという意味も含まれます。つまり、その人物は真 を め、それに う者なのです。スィッディ クは自分自身や周りの人々に であるのはもちろんのこと、神に しても 固たる 性を有する人物のことなのです。アブ バクルはそういった人物でした。

言者ムハンマドは、「盟友」という言 を用いて、アブ バクルに し大きな 情と敬意を示しました。その言 はアラビア において「ハリ ル」で、友情だけでなく、 すことの出来ない、心からの信 も意味します。言者アブラハムは、神のハリ ルとして知られ、また言者ムハンマドも彼自身の神との においてその言 を用いましたが、彼自身アブ バクル

とのに、特な信をき上げていました。

背景

言者ムハンマドの言行、そしてイスラムの史から、アブバクルは言者ムハンマドの生から二年に、クライシュ族系の氏族に生まれていたことが分かっています。アブバクルの家庭は比的かで、彼自身も商人として成功していました。彼は社会的に知名度も高く、好感の持たれる、さくな人物でした。

アブバクルは周のあらゆる人々とのコミュニケーションをし、アラブの系においても精通していました。彼はアラブ人部族の名称や位置を熟知し、それぞれの良い点、悪い点を把握していました。この知によって、彼は様々な人々と交わることができ、マッカ社会において影力を及ぼしていたのです。

言者ムハンマドが最初の妻であるハディジャと婚したとき、彼とアブバクルが人同士となったことをきっかけに彼らは知り合い、睦を深めました。お互いに商人であり、お互いにさと廉直な心によって行っていました。

また、言者ムハンマドとアブバクルは共に、イスラム以前のアラビア半に蔓延していた腐行や、偶像崇に近寄ることがありませんでした。彼らは族としての近い、生涯の友としてお互いを知っていました。

先者

アブバクルアッ=スィッディクは、成人男性として初めて、言者ムハンマドの教えを受け入れてイスラムに改宗した人物でした。言者ムハンマドが、唯一なる神以外に崇にするものはなく、彼（ムハンマド）が神の使徒であると言ったのを聞いたとき、アブバクルは躊躇なくイスラムへと改宗しました。イスラムに改宗したり、失った信仰に立ち返ったりする人は、しもが障害やためらいを出すものですが、それは彼には当てはまりませんでした。信仰の甘美さが彼の心に入り、なる者として知られる彼は、真を知したのです。

つも、永なる生命の である へは い合うよう 告していたのです。イスラ ムの 史家である アッ=タバリ は、著名な教友イブン アッバ スの言 を引用しこう述べています。「アブ バクルは、 言者ムハンマドの教友たちの中でも最も敬虔かつ なる者で、 世の喜びを放し、神に全てを委ねたのである。」 言者ムハンマドの言行 からも、私たちはアブ バクル が神の 言者の次に天国に入る、最初の人物であることを学び取ることが出来ます。彼はまさしく、先 者なのです。

Footnotes:

1 サヒ フ ブハ リ

2 サヒ フ ブハ リ

3 アブ バクルの葬 における、アリ の言 。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1916>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。